

人物 レファレンス 事典

架空・伝承編
第Ⅱ期

凡 例

1. 本書の内容

本書は、国内の代表的な神話・伝説・伝承事典、妖怪事典、登場人物事典などに掲載されている日本の架空・伝承の人物の総索引である。見出しとしての人名表記・読みのほか、人物の特定に最低限必要なプロフィールを補記し、その人物がどの事典にどのように表記されているかを明らかにしたものである。

2. 収録範囲と人数

- (1) 別表に示した67種72冊に掲載されている、国内の神話や古典芸能・文学の登場人物、妖怪をはじめとした架空・伝承上の人物（生物）などを収録した。
- (2) 前版刊行後に出版された事典および前版未収録の事典を補遺として一部対象とした。
- (3) 実在とされる人物でも、芸術作品に数多くとりあげられる人物や神話・英雄事典などに掲載される伝承性の高い人物は収録した。
- (4) 外国人名でも、国内で発表された作品の登場人物等は収録対象とした。
- (5) 収録人数（人名見出し）は12,308人、事典項目数はのべ18,825項目である。

3. 記載事項

本書の各項目は次の要素から成る。

- ① 人名見出し
- ② 人物説明
- ③ 掲載事典

(1) 人名見出し

- 1) 原則として同一人物は各事典での表記に関わらず一項目にまとめた。まとめるに際しては、多くの事典に掲載されている一般的な表記とその読みを採用した。但し、地域・所出文献・登場作品により呼称が違う場合など別項目とした見出しもある。

- 2) 典拠に人名の読みが記載されていなかったものについては、調査の上、編集部で適切と思われる読みを補記し、末尾に★を付した。

(2) 人物説明

1) プロフィール

人物の活躍時代・地域・肩書・身分・職業・特徴、古典芸能・文学の登場人物であれば作品名などの出典を簡潔に記載した。地域名は、出典により旧国名・旧地名のままとしたものもある。

(3) 掲載事典

- 1) その人物が掲載されている事典を ㊦ の後に略号で示した。（略号は別表「収録事典一覧」を参照）
- 2) 各事典における人名見出しおよび生没年を（ ）に入れて示した。見出しは各事典における人名表記と読みを示した。生年は㊤を没年は㊦を付して表し、生年または没年が不詳の場合は“？”を用いた。
- 3) その事典が西暦・和暦のいずれかしか記載していない場合は記載のあるもののみ示した。西暦・和暦の両方を記載していればいずれも示した。「元年」は「1年」に統一した。
- 4) 同一事典に同名見出しが存在する場合など掲載箇所を示すため、地域名や分類等を人名表記の後ろに〔 〕で補記したものもある。
- 5) 各事典のデータ末尾に〔像〕で肖像画、挿絵の有無を示した。

4. 参照項目

別名・別読みから本書で採用した見出し名・見出し読みが検索できるように参照項目を立てた。

5. 排 列

- (1) 人名見出しの読みの五十音順に排列した。
- (2) 濁音・半濁音は清音とし、ヂ→シ、ヅ→スとした。促音・拗音は直音とみなし、長音符（音引き）は無視した。
- (3) 同読みの場合は、同じ表記のものをまとめた。

6. 収録事典一覧

- (1) 本書で索引対象にした事典の一覧を次ページ（および見返し）に掲げた。
- (2) 略号は、本書において掲載事典名の表示に使用したものである。
- (3) 掲載は、略号の読みの五十音順とした。

収録事典一覧

略号	書名	出版社	刊行年
愛知妖怪	愛知妖怪事典	一粒書房	2016.3
悪魔学	悪魔と悪魔学の事典	原書房	2016.4
茨城妖怪	茨城の妖怪図鑑	TOブックス	2019.7
うつほ事	うつほ物語大事典	勉誠出版	2013.2
江戸妖怪	江戸武蔵野妖怪図鑑	けやき出版	2002.7
オカ怪事	オカルト怪異事典	笠間書院	2021.9
岡山妖怪1	岡山の妖怪事典—妖怪編 (岡山文庫)	日本文教出版	2014.6
岡山妖怪2	岡山の妖怪事典—鬼・天狗・河童編 (岡山文庫)	日本文教出版	2015.6
沖縄マジムン	沖縄マジムン図鑑	主婦の友社	2013.3
怪妖関東	日本怪異妖怪事典 関東	笠間書院	2021.10
怪妖近畿	日本怪異妖怪事典 近畿	笠間書院	2022.6
怪妖大事典	日本怪異妖怪大事典	東京堂出版	2013.7
怪妖東北	日本怪異妖怪事典 東北	笠間書院	2022.5
怪妖北海道	日本怪異妖怪事典 北海道	笠間書院	2021.6
神かたち	カラー版 神のかたち図鑑	白水社	2016.12
記紀事典	キーワードで引く 古事記・日本書紀事典	東京堂出版	2006.10
源氏作中	源氏物語作中人物事典	東京堂出版	2007.1
源氏事典	源氏物語事典	大和書房	2002.5
源氏必携	源氏物語必携事典	角川書店	1998.12
幻獣辞典河	幻獣辞典 (河出文庫)	河出書房新社	2015.5
幻獣辞典新	幻獣辞典 新版	晶文社	2013.10
幻想用語	幻想用語辞典	新紀元社	2021.5
古事記神	古事記の神々—付古事記神名辞典 (角川ソフィア文庫)	KADOKAWA	2020.8
古事記事	古事記事典 (第3刷)	桜楓社	1991.3
西鶴事典	西鶴事典	おうふう	1996.12
真田事典	真田幸村歴史伝説文学事典	勉誠出版	2015.11
社寺縁起	社寺縁起伝説辞典	戎光祥出版	2009.12
上代説話	上代説話事典 拡大版	雄山閣出版	2020.12
図説妖図鑑	図説 眠れないほど怖くなる!日本の妖怪図鑑 (青春文庫)	青春出版社	2020.8
図説妖百	図説 日本の妖怪百科	学研プラス	2017.6
世海賊	世界の海賊大事典	宝島社	2015.3
世怪物神獣普	世界の怪物・神獣事典 普及版	原書房	2014.9
世神々神話	ヴィジュアル版 世界の神々と神話事典	学研プラス	2016.11
世幻妖	世界幻妖図鑑—ドラゴンから妖怪(YOKAI)まで	フレーベル館	2020.3

略号	書名	出版社	刊行年
世神英事典	世界の神話 英雄事典	河出書房新社	2019.11
世神英図鑑	世界の神話と英雄大図鑑	河出書房新社	2020.10
世神伝図鑑	コンパクト版 世界の神話伝説図鑑	原書房	2020.5
世神伝大	世界神話伝説大事典	勉誠出版	2016.8
世女神	世界女神大事典	原書房	2015.9
世妖精妖怪普	世界の妖精・妖怪事典 普及版	原書房	2014.8
全国妖怪講	全国妖怪事典 (講談社学術文庫)	講談社	2014.12
創作怪事	創作怪異怪物事典	笠間書院	2022.7
東北妖怪	とうほく妖怪図鑑	無明舎出版	2003.7
ドラゴン	ドラゴンの教科書—神話と伝説と物語	原書房	2019.8
日本異類	日本異類図典	G.B.	2022.5
日本鬼	日本の鬼図鑑	青幻舎	2021.12
日本神様新	(新装ワイド版) 日本 神さま事典	大法輪閣	2016.12
日本書紀事	入門 日本書紀事典	東京堂出版	2021.12
日本説話	日本説話小事典	大修館書店	2002.4
日本未確認角	図説 日本未確認生物事典 (角川ソフィア文庫)	KADOKAWA	2018.11
日本妖怪	日本の妖怪 (宝島SUGOI文庫)	宝島社	2015.3
ビジュ妖百	ビジュアル版 日本の妖怪百科 (普及版)	河出書房新社	2020.1
姫大全	お姫さま大全—100人の物語	講談社	2011.3
風土記事	古代風土記の事典	東京堂出版	2018.10
平家作中	平家物語作中人物事典	東京堂出版	2017.7
平家知事典	平家物語を知る事典	東京堂出版	2005.6
平家大事典	平家物語大事典	東京書籍	2010.11
昔話伝説	昔話・伝説を知る事典	アーツアンドクラフツ	2021.12
山怪異	山の怪異大事典	宝島社	2021.6
妖怪大事典改	改訂・携帯版 日本妖怪大事典 (角川文庫)	KADOKAWA	2015.4
妖怪大全決	決定版 日本妖怪大全—妖怪・あの世・神様 (講談社文庫)	講談社	2014.2
妖怪伝承	47都道府県・妖怪伝承百科	丸善出版	2017.9
妖怪ハン	身近な妖怪ハンドブック	文一総合出版	2012.7
妖怪ビ図鑑	妖怪ビジュアル大図鑑	講談社	2018.7
来訪神	来訪神事典	新紀元社	2020.8
落語演用	落語演目・用語事典	日外アソシエーツ	2021.1
落語登場	落語登場人物事典	白水社	2018.3
落語ハン	登場人物から味わう 落語ハンドブック—落語国人別帳	亜紀書房	2013.9
琉球妖怪上	琉球妖怪大図鑑 上	琉球新報社	2015.2
琉球妖怪下	琉球妖怪大図鑑 下	琉球新報社	2015.3
歴人怪事	歴史人物怪異談事典	幻冬舎	2019.10
和歌山妖怪	マエオカテツヤの和歌山妖怪大図鑑	ニュース和歌山	2018.2

【あ】

ああああ

宮城県や岩手県に伝わる化け物。

ⓘ 怪妖東北 (ああああ〔東北広域〕)

相生屋小四郎 あいおいやこしろう

古典落語『小間物屋政談』に登場する背負い小間物屋。

ⓘ 落語ハン (相生屋小四郎 あいおいやこしろう)

相川新五兵衛 あいかわしんごべえ

古典落語『怪談牡丹燈籠』に登場する旗本。

ⓘ 落語登場 (相川新五兵衛 あいかわしんごべえ)

愛護若 あいごのわか

説経節『愛護若』の主人公。

ⓘ 日本説話 (愛護の若 あいごのわか)

アイシリ

アイヌ語で幽霊を表す言葉。

ⓘ 怪妖北海道 (アイシリ〔広域〕)

会津の怪獣 あいづのかいじゅう

⇒奥州会津怪獣(おうしゅうあいづかいじゅう)

アイヌエツ

アイヌに伝わる妖怪。人を食うものという意味。

ⓘ 怪妖北海道 (アイヌエツ〔道央〕)

アイヌカイセイ

アイヌに伝わる妖怪。空家、古家などに現れる。

ⓘ 怪妖大事典 (アイヌカイセイ)
怪妖北海道 (アイヌカイセイ〔広域〕)
全国妖怪講 (アイヌカイセイ〔北海道〕)
妖怪大事典改 (アイヌカイセイ)

アイヌソッキ

アイヌに伝わる妖怪。人魚のような姿。

ⓘ 怪妖大事典 (アイヌソッキ)
怪妖北海道 (アイヌソッキ〔道南〕)
全国妖怪講 (アイヌソッキ〔北海道〕)

アイヌトウカブ

アイヌ語で幽霊のこと。

ⓘ 怪妖大事典 (アイヌトウカブ)
怪妖北海道 (アイヌトウカブ〔広域〕)

アイヌライトウカブ

アイヌ語で死霊のこと。

ⓘ 怪妖北海道 (アイヌライトウカブ〔広域〕)

アイヌラックル

日高地方、胆振地方、上川・空知地方の物語などに語られる、人間の生活、文化の始祖で、人間界を守る神、文化英雄。

ⓘ 世神伝大 (アイヌラックル)

アイヌラマトゥ

アイヌ語で幽霊を表す言葉。

ⓘ 怪妖北海道 (アイヌラマトゥ〔広域〕)

逢火 あいび

『雍州府志』にある怪火。5月の夜に比叡山西の相逢の森に集まっては消える。

ⓘ 怪妖近畿 (逢火〔京都府〕あうひ)

逢火 あうひ

⇒逢火(あいび)

アエオイナカムイ

アイヌの祖先神。北海道の日高地方では、オキクルミおよびアイヌラックルの別称とされる。

ⓘ 世神伝大 (アエオイナカムイ)

青 あお

三遊亭円朝作『塩原多助一代記』(1889)に登場する馬。

ⓘ 落語登場 (青 あお)

青行灯 あおあんどう

百物語の終わりに現れるとされる妖怪。行灯の向こうに立つ鬼女の姿。

ⓘ 江戸妖怪 (青行灯)〔像〕
妖怪大事典改 (青行灯 あおあんどう)
妖怪大全決 (青行灯 あおあんどう)〔像〕

青い海犬 あおいうみいぬ*

和歌山県熊野地方の海に棲む妖怪。全身真っ青な犬の姿。

ⓘ 和歌山妖怪 (青い海犬)

葵の上 あおいのうえ

『源氏物語』に登場する女性。光源氏と結婚し、男子夕霧を産む。

ⓘ 源氏作中 (葵の上 あおいのうえ)
源氏事典 (葵の上 あおいのうえ)
源氏必携 (葵の上 あおいのうえ)

葵の前 あおいのまえ

平安時代後期中宮建礼門院につかえた女官。『平家物語』や『源平盛衰記』に登場する。

ⓘ 平家大事典 (葵 あおい 生没年未詳)

青鬼 あおおに

『諸国百物語』に登場する鬼。加賀中納言死去の際にただ広間を通り抜けて行った。

ⓘ 全国妖怪講 (アオオニ〔石川県〕)

青鬼 あおおに

皮膚の色が青い鬼。仏教の地獄思想の影響によるもの。

ⓘ 日本未確認角 (青鬼・赤鬼・黒鬼 あおおに・あかおに・くろおに)

青木久次郎 あおききゆうじろう

古典落語『やんま久次』『大べらぼう』に登場する旗本青木家の次男。

ⓘ 落語登場 (青木久次郎 あおききゆうじろう)



青木久之進 あおききゅうのしん

古典落語『やま久次』『大べらぼう』に登場する旗本の当主。

⊕落語登場 (青木久之進 あおききゅうのしん)

あ 青き袋のようなもの あおきふくろのようなもの

建保7年正月7日、鎌倉の空に現れたというもの。一丈ほどある青い袋のようなかたちのもので、鎌倉の大風の端緒となった。

⊕怪妖関東 (青き袋のようなもの〔神奈川県〕 あおきふくろのようなもの)

青五輪 あおごりん

会津藩士・三坂春福による『老嫗茶話』にある五輪塔の怪異。

⊕怪妖東北 (青五輪〔福島県〕 あおごりん)

青鷲火 あおさぎのひ

夜間などに青鷲が青白く光って見える怪異をいう。

⊕怪妖関東 (青鷲火〔関東広域〕 あおさぎのひ)
怪妖大事典 (青鷲、鷲鷲 あおさぎ)
妖怪大事典改 (青鷲火 あおさぎのひ)
妖怪大全決 (青鷲火 あおさぎのひ)〔像〕

阿王者 あおじゃ

鳥海山に住んでいたという三人組の怪人のうちの一人。

⊕怪妖東北 (阿賀者・四郎者・阿王者〔秋田県〕 あかじゃ・しろじゃ・あおじゃ)

青頭巾 あおずきん

上田秋成作の読本『雨月物語』(1776)の「青頭巾」の主人公。僧侶。

⊕怪妖関東 (青頭巾〔栃木県〕 あおずきん)

青茶婆々 あおちゃばば

滋賀県甲西町(現・湖南市)に伝わる打ち首になった忍びの女。

⊕怪妖近畿 (青茶婆々〔滋賀県〕 あおちゃばば)

青砥藤綱 あおとふじつな

鎌倉中期の武士。名裁判官として文学や演劇に登場する。

⊕西鶴事典 (青砥藤綱〔歴史上の人物〕 あおとふじつな 生没年未詳)

青入道 あおにゅうどう

岡山県勝田郡地方でいう妖怪。青色の大入道。

⊕岡山妖怪1 (青入道〔見越し入道〕)

青入道 あおにゅうどう

岡山県の玉島乙島に伝わる、焼死した金持ちが化けたもの。隠したお金の壺が気にかかり、毎晩、青入道の姿で現れたという。

⊕岡山妖怪1 (青入道〔入道・小僧〕)

青女房 あおにょうぼう

鳥山石燕の『今昔画图統百鬼』に描かれた妖怪。宮廷の古御所に女官の姿をして棲む。

⊕日本妖怪 (百鬼夜行絵巻の妖怪〔青女房〕)〔像〕
妖怪大事典改 (青女房 あおにょうぼう)〔像〕
妖怪大全決 (青女房 あおにょうぼう)〔像〕
妖怪ピロ鑑 (青女房 あおにょうぼう)〔像〕

青沼馬沼押比売神 あおぬまぬおしひめのかみ

美呂浪神の妾神。

⊕古事記神 (アラスマウマスマオシヒメ 青沼馬沼押比売)

古事記事 (青沼馬沼押比賣〔神名〕 あをぬまぬおしひめ)

青幣 あおべ

栃木・群馬の県境の山に祀られている五色天狗のひとつで、青色の天狗だという。

⊕怪妖関東 (青幣〔栃木県〕 あおべ)

青坊 あおぼう

京都府加茂町(現・木津川市) 岡崎に伝わる。文化坂という坂道に現れる。

⊕怪妖近畿 (青坊〔京都府〕 あおぼう)

アオボウズ

静岡県や三重県熊野市金山町に伝わる妖怪。妻が青々とする頃に現れる。

⊕怪妖近畿 (アオボウズ〔三重県〕)
全国妖怪講 (アオボウズ〔静岡県〕)
妖怪ハン (青坊主 あおぼうず)〔像〕

青坊主 あおぼうず

岡山県邑久郡でいう、体もしくは衣服が青い大坊主の妖怪。空き家などに出る。鳥山石燕『画図百鬼夜行』にも一つ目で法師の姿の「青坊主」が載る。

⊕岡山妖怪1 (青坊主)
図説妖百 (青坊主 あおぼうず)〔像〕
妖怪大事典改 (青坊主 あおぼうず)

青坊主 あおぼうず

香川県仲多度郡まんのう町に伝わる妖怪。「首を吊らんか」と誘う。

⊕妖怪伝承 (青坊主〔香川県〕)

青坊主 あおぼうず

僧形の妖怪。地域により、颯が化けたもの、狸が化けたものともいう。

⊕怪妖近畿 (アオボウズ〔和歌山県〕)
妖怪大事典 (青坊主 あおぼうず)

青物の火 あおものひ

千葉県印旛郡などに伝わる火の怪。

⊕怪妖関東 (青物の火〔千葉県〕 あおものひ)

青山池の怪物 あおやまいけのかいぶつ

愛知県知多郡美浜町に伝わる、青山池に棲むという怪物。

⊕愛知妖怪 (青山池の怪物 あおやまいけのかいぶつ)

青山ぎつね あおやまぎつね

愛知県日進市岩崎町に伝わる。田畑で子どもが迷子になると「青山ぎつねにさらわれた」と言った。

⊕愛知妖怪 (青山ぎつね あおやまぎつね)

青山鉄山 あおやまてっさん

浄瑠璃や歌舞伎の『播州皿屋敷』に登場する、細川家の国家老。落語『皿屋敷』にも名が出る。

⊕落語演用 (青山鉄山 あおやまてっさん)

青山幸督 あおやまよしまさ

江戸前期の大名。井原西鶴の作品に登場する。

⊕西鶴事典 (青山幸督〔歴史上の人物〕 あおやまよしまさ ⊕寛文5(1665)年 ⊕宝永7(1710)年)

赤足 あかあし

香川県の塩飽諸島で、山路の辻などに出る妖怪。

⊕山怪異 (赤足〔香川県〕)
全国妖怪講 (アカアシ〔香川県〕)

赤足 あかあし

福岡県の山に出る妖怪。綿のようなものを往来の人にからみつける。

⊕全国妖怪講 (アカアシ〔福岡県〕)

赤頭 あかあたま

鳥取県西伯郡名和村(現・大山町)に伝わる怪力の男。

⊕妖怪大事典改 (赤頭と小僧の妖怪 あかあたまこそうのようかい)
妖怪大全決 (赤頭と小僧の妖怪 あかあたまこそうのようかい)〔像〕
妖怪伝承 (赤頭〔鳥取県〕)

赤い石に棲む化け物 あかいいしにすむばけもの

アイヌに伝わる、男の人魚の化け物。

⊕怪妖北海道 (赤い石に棲む化け物〔広域〕 あかいいしにすむばけもの)

赤いお月様 あかいいつきさま

赤いお月様のような怪光。

⊕怪妖関東 (赤いお月様〔関東広域〕 あかいいつきさま)

赤猪子 あかいこ

大和大三輪氏の系統の引田氏の娘。少女の頃、大和(奈良県)美和河(三輪川)で、雄略天皇に見初められ、嫁がずにいれば宮中に迎えるといわれたが80年が経過しても迎えが来なかった。

⊕記事事典 (赤猪子 あかいこ)
古事記事 (引田部赤猪子〔人名〕 ひけたべのあかこ)
上代説話 (引田部の赤猪子 ひけたべのあかいこ)

赤い子犬 あかいいぬ

東京都檜原村に伝わる、赤い子犬の姿をした妖怪。

⊕怪妖関東 (赤い子犬〔東京都〕 あかいいぬ)

赤井御門守 あかいいごもんのかみ

古典落語『妾馬』『八五郎出世』に登場する殿様。丸の内に赤門のある屋敷を構える。

⊕落語演用 (赤井御門守 あかいいごもんのかみ)
落語登場 (赤井御門守 あかいいごもんのかみ)
落語ハン (赤井御門守 あかいいごもんのかみ)

赤い衣の大坊主 あかいいのころのおおぼうず*

岩手県遠野市に伝わる、衣を羽ばたかせて空を飛ぶ僧侶の怪。

⊕山怪異 (赤い衣の大坊主〔岩手県〕)

赤石の鼻の鬼 あかいいしのはのおに

三重県南勢町(現・南伊勢町)相賀浦の赤石の鼻の由来となった鬼。

⊕怪妖近畿 (赤石の鼻の鬼〔三重県〕 あかいいしのはのおに)

赤い灯をともす怪物 あかいいひをともすかいぶつ

北海道余市の海に現れた怪物。

⊕怪妖北海道 (赤い灯をともす怪物〔道央〕 あかいいひをともすかいぶつ)

赤い光 あかいいかり

夜に見えるという赤い怪光。茨城県勝田市(現・ひたちなか市)などでいう。

⊕怪妖関東 (赤い光〔茨城県〕 あかいいかり)

赤い服の女 あかいいふくのおんな

東京都の八王子トンネルで目撃された、真っ赤な服を着た女の幽霊。

⊕怪妖関東 (赤い服の女〔東京都〕 あかいいふくのおんな)

赤いヤツケの女 あかいいやつけのおんな*

利根郡水上町(現・みなかみ町)のスキー場に現れる女の霊。

⊕山怪異 (赤いヤツケの女〔群馬県〕)

赤岩の白龍 あかいわのはくりゅう

北海道小樽市の赤岩山にある洞窟に棲む龍。

⊕怪妖北海道 (赤岩の白龍〔道央〕 あかいわのはくりゅう)
山怪異 (赤岩の龍神〔北海道〕)

赤岩の魔物 あかいわのまもの

和歌山県御坊市に伝わる、赤岩という大きな岩の下に住む魔物。

⊕怪妖近畿 (赤岩の魔物〔和歌山県〕 あかいわのまもの)

赤い童子 あかいいわらし

青森県三戸郡新郷村西越貝屋敷における怪異。大正11年、不意に囲炉裏から出て家人に掴みかかってきた。

⊕怪妖東北 (赤い童子〔青森県〕 あかいいわらし)

鱧魚 あかえい

林子平の『三国通覧図説』にある、北海道に伝わる巨大なアカエイの怪物。

⊕怪妖北海道 (鱧魚〔広域〕 あかえい)

赤えい あかえい

竹原春泉『絵本百物語』にある巨大魚。安房国(千葉県)の舟が遭遇し、島と思って上陸したという。

⊕図説妖百 (赤えいの魚 あかえいのうお)〔像〕
ヒジメ妖百 (赤鱈 あかえい)〔像〕
妖怪大事典改 (赤えいの魚 あかえいのうお)
妖怪大全決 (赤えい あかえい)〔像〕
妖怪ピロ鑑 (赤えい あかえい)〔像〕

赤鬼 あかおに

皮膚の色が赤い鬼。仏教の地獄思想の影響によるもの。

⊕日本未確認図 (赤鬼・赤鬼・黒鬼 あおおに・あかおに・くろおに)

赤頭 あかがしら

『土佐化物絵本』にある赤い頭をした妖怪。「勝負瀬の赤頭」として載る。

⊕図説妖百 (赤頭 あかがしら)〔像〕

人物レファレンス事典 架空・伝承編 第Ⅱ期

2022年10月25日 第1刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

© Nichigai Associates, Inc. 2022

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えます> (中性紙北極流クリームキンマリ使用)

ISBN978-4-8169-2940-3 **Printed in Japan, 2022**

本書はデジタルデータでご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。